

オンラインでの学びを準備するオンライン・オリエンテーションの分析 －「学習者個人に関わる要因」4要素を用いて－

Analysis of Online Orientation for a Graduate Program

根本 淳子, 鈴木 克明

Junko NEMOTO, Katsuaki SUZUKI

熊本大学大学院 教授システム学専攻

Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

nemoto@kumamoto-u.ac.jp

あらまし: 本発表では、オンライン・オリエンテーション向けデザインガイドを提案することを目指し、オンライン大学院で学ぶ学習者向けに実施してきたオリエンテーション科目の活動を、先行研究を踏まえながら「学習者個人に関わる要因」4要素を用いて整理した。学習者が入学してすぐに学習に集中できる環境を提供するために必要な要素を本事例の力点として確認することができた。

キーワード: 学習設計, オリエンテーション, オンライン大学院, 個人要因, 学習支援

1. はじめに

オリエンテーションは新しい学習環境の中で学習をスムーズに進める準備の場として実践されている^①。通常の対面型の学習環境ではもちろんのこと、遠隔教育においてもオリエンテーションは有用とされ、多くの大学・大学院で実施されている。熊本大学大学院教授システム (gsis) においても入学予定者を対象に4月からの学習開始前にオリエンテーション科目を実施してきた^②。修士学生は入学当初から修了単位を満たすために5科目以上の履修が必要になる。入学直後から専門的知識やスキルの習得に集中するには、新しい学習環境への第一ステップとして当該科目が必須となる。毎年試行を重ね改善を行ってきているが、今回はオンライン・オリエンテーションのガイドラインを作成することを目指し先行研究を踏まえながら、これまでの実践を分析整理した。

2. オンライン・オリエンテーションに関する先行研究

オリエンテーションに関する研究は海外での実践に関する報告が多い。イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校では人材教育や教育カリキュラムの修士に対し、通学・遠隔の両タイプの学生に同じ内容のオリエンテーション科目を提供している^③。プログラムや各科目に関する情報を一元的に提供しながらオンラインツールを使ってコミュニケーションが取れるようになる活動までをさまざまなメディアを利用して提供している。

Bozrth らの実践では^④、インストラクショナルデザインを学ぶ学生らがオンラインプログラムを持つ大学をクライアント向けに、学生・教員・オンライン経験者などへのアンケート調査の結果などから抽出されたオンライン学習に必要なスキル習得を満たす一単位の科目を提案している。

両事例ともオンライン上でコミュニケーションが

取れるまでの操作スキルトレーニングを盛り込み、ファシリテーターを担う教員のスキルを高めることにも触れている。さらに前者では IT 系のスキルだけではなく、大学の情報や科目内容の確認を行う通学生に向けに行われる内容もオンライン・オリエンテーションにも含めることを提案している。

我々が実施するオリエンテーション科目でもシステム操作に関する内容を含んでいるが、通常対面で行われる内容（たとえば大学・専攻に関する情報提供）も科目内で提供するように設計している。また、オリエンテーション科目自体が実際に学習する科目と同じ構成を取り、学習活動を中心に据え、その活動に必要な情報を学習者が取れることを意識している。中でも学習者が入学前の学びを各自で振り返り、履修計画を通じてどのように gsis の学びを充実させるかの方略を当科目内の活動（タスク）を通じて学習者自身で考えていく点は他のオリエンテーションの事例と比較して独自性が高いと考えられる。

3. オリエンテーション活動内容の分析

前述のようにオリエンテーションは大学や専攻などの学習に必要な情報を提供するだけではなく、学習者が自分の学びについて考え自分の学習を設計する経験を与えることが必要というポリシーで実施し、活動ベースに提供してきた。そこで今回のこの活動を整理するにあたり、個人の学習経験のレベルを高めるために必要な要件として Parrish が掲げる「学習者個人に関わる要因」4要素^⑤を用いて現在のオリエンテーション科目を分析した。

まず、2010年度のオリエンテーション科目で実施した活動とその活動向けに提供した情報を表に整理し、各活動の目的を整理した。結果 **IT**: 学習に必要な操作スキルを習得する活動、**態度**: gsis の学習環境、カリキュラム、仲間を確認しながら新しい環境で学んで行こうという意味を確認する活動、**学習プラン(メタ)**: 本専攻の中で自分がどこに目標を置き

てどのように学んでいくかを考える活動の 3 種類に分類できた。次に各学習活動が「学習者個人に関わる要因」の 4 要素である意図(Intent)、プレゼンス(Presence)、開放性(Openness)、信頼感(Trust)のどれに当てはまるかを整理した(表 1)。

意図は設計者の意図も含みながら学習者の態度・価値・期待・信念・嗜好・自らが置かれていると思う立場の認識などを含む。よって、学習者が学んでいく新しい環境を確認しどのように進めていくかを感ずるよう設計した当該科目では、ほとんどの活動に意図が含まれていると判断した。

プレゼンスとは自分は学ぶ必要があるという現状を踏まえて自己開示をしながら共に学んで行こうとする経験を意味する。今回は自己紹介・自分の目標の公開・リフレクションペーパーの提示など、自分の考えや意見を仲間に伝える場面をプレゼンスと判断した。

開放性とは自分の考えを持ちながら変化することを受け入れることを指す。本科目では学習の計画や目標などを含む自分の考えを投稿するタスクが開放性を高める機会であったと考えられ、プレゼンスとほぼ同じ活動が開放性に当てはまった。

信頼感の良い結果を期待しながら進むことである。信頼感はすべてに含まれていると思う一方で、これは学習経験そのものに対する信頼よりも新しく自分が所属する組織や学習環境に関するものであり、信頼感を築くための準備と解釈した。よって、最後の SCC という新しい学習アプローチを選択する部分と 4 月からの学習に向けた最後の終了宣言がこれからの学習経験に信頼を置いて活動する宣言であると考えたとらえ当てはまると考えた。

4. 考察

先行研究と既存科目の活動分析から、gsis のオリエンテーションはオンラインでの学習に必要なスキルと学習者が自ら立てた計画や目標に向かって学習ができるような準備を一連の学習活動として提供していることが力点であると考えられる。活動内容は技術的な知識を問うものからメタ的なものへと難易度を徐々に上げていくアプローチをとりながらも、学習経験の 4 要素はバランスよく含めていることが確認できた。さらに今回の分析に加え先行研究の調査や他の分析軸を使って整理をしていくことが必要である。

参考文献

- (1) Robinson, D., Burns C., & Gaw, K. (1996) Orientation programs: A foundation for student learning and success. *New Directions for Student Services*, 75, 55-68.
- (2) 根本淳子・宮崎誠・松葉龍一・鈴木克明(2008)「オンライン学習者のためのオンライン・オリエンテーション-ストーリー型カリキュラムに向けての改善-」教育システム情報学会第 33 回全国大会(熊本大学)発表論文集, 62-63
- (3) Scagnoli, N. I. (2001) Student Orientations for Online Programs. *Journal of Research on Technology in Education*. (34)1,19-27
- (4) Bozarth, J., Chapman, D. D., & LaMonica, L. (2004). Preparing for Distance Learning: Designing An Online Student Orientation Course. *Educational Technology & Society*, 7 (1), 87-106.
- (5) Parrish, P., Wilson, B., & Dunlap, J. (2010 to be published in *Educational Technology*) Learning Experience as Transaction: A Framework for Instructional Design [Retrieved from http://homes.comet.ucar.edu/~pparrish/papers/LearnExp%20As%20Trans%20_final.doc]

表 1：学習活動の分析結果

回	学習活動	活動の目的	提供した情報とその情報源	個人に係わる要因
1	自己紹介	IT・態度	本専攻で学習するにあたっての心構え/ 教員紹介/オフィスアワー	I・P・O
2	タスクチェッカー操作	IT		
3	ML への投稿	IT・態度	学生番号関連の情報・メールアドレス設定に関する情報/ 専攻 ML について	I
4	PC 環境の確認	IT	学内で利用するシステムの種類と目的についての説明	I
5	ゴールステートメントの作成	メタ・態度	gsis コンピテンシー/eラーニングプロフェッショナル資格/ 最終試験とポートフォリオ/現在までの達成度の確認	I・P・O
6	履修計画	メタ・態度	修了条件(単位数・最終試験)/ シラバス・課題図書/長期・短期履修制度	I
7	リフレクションペーパーの作成	メタ	5・6 回と同じ	I・P・O
8	基盤的教育論履修の検討	メタ	履修免除の条件	I
9	IT レベルの確認	メタ	基盤の情報処理論免除申請の課題内容	I
10	基盤的情報処理論の受講検討	メタ	基盤的情報処理論の位置づけ(前提科目)	I・P
11	入学前に取り組んできた教育活動の整理	メタ	学習ポートフォリオについての説明	I・P・O
12	SCC の印象	態度	統合型カリキュラム設計演習/先輩からのアドバイス	I
13	SCC「ホーム」を利用した感想	IT・態度	SCC 用学習トップページ(「ホーム」)[リンク]	I
14	SCC の受講申請	メタ		O・T
15	オリエンテーション終了宣言	態度		I・P・O・T
他	質問コーナー	すべて	先輩のつぶやき/学習スケジュール/WebCT の操作方法/ 科目の構成/スタッフから見たヒント集	

注 1：活動の目的-メタ：学習プラン、学習者個人に関わる要因-I：意図、P：プレゼンス、O：開放性、T：信頼性